

介護保険制度が支える

安定産業!



介護保険制度

介護が必要な高齢者を社会全体で支える仕組み

- **自立支援**
日常生活を通して高齢者の自立を支援すること
- **利用者本位**
多様な介護サービスを利用者が自由に選択できること
- **社会保険方式**
介護サービスに対し、一定の公的給付を行う制度

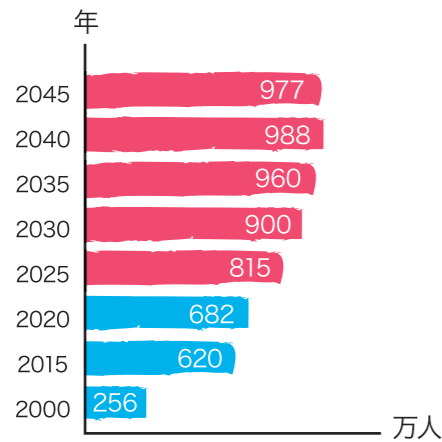
介護業界が安定産業として成り立つ背景には、介護保険制度があります。

この制度により、高齢者が安心して暮らすことができ、また、介護職員が安定的に働くことができます。

介護職員がとても必要とされている

成長産業!

要介護(要支援)認定者の将来推計

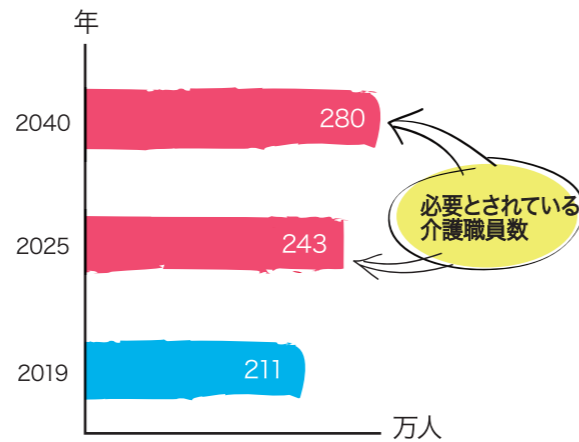


引用作成：
経済産業省『将来の介護需給に対する高齢者ケアシステムに関する研究会 報告書』平成30年3月
厚生労働省『令和2年度介護保険事業状況報告』

超高齢社会が進む中、2025年には、65歳以上の高齢者人口は、3,677万人に達し、2036年には全人口の約3分の1が高齢者になると推計されています。

また、要介護認定者は要支援を含め、

今後必要となる介護職員数



引用作成：
厚生労働省『第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について』令和3年7月

2030年には900万人台を超えると予測され、こうした流れに伴い、介護職員の不足が課題として想定されますが、逆に捉えれば今後需要が**どんどん伸びていく成長産業**といえます。

介護職員は

様々な場所で活躍できる!



高齢者の状態やニーズに応じ、入所型、通所型、訪問型等の介護サービスがあります。

そして、各サービスを提供するところが介護職員の職場となります。

入所型サービス

特別養護老人ホーム、
介護老人保健施設 等

施設で暮らしている利用者に対し、介護サービスを提供

通所型サービス

デイサービス、
デイケア 等

自宅で暮らしている高齢者に、自宅以外の場所に来てもらって介護サービスを提供

その他、グループホームや小規模多機能型居宅介護等の**地域密着型サービス**もあります。

訪問型サービス

訪問介護、
訪問入浴 等

高齢者の自宅に訪問して介護サービスを提供

多様化する介護サービス

要介護者が増加すれば、介護に対する要望も複雑化し、多様化します。それらの要望に柔軟に応えるため、従来通りの基本的な身体介護や生活援助といった介護保険制度に沿った介護サービスに留まることなく、介護保険外サービスも含めた「混合介護サービス」が増えると予想され

ています。また、重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けたいと願う高齢者のための仕組みづくりも進んでいます。

そのため、ますます介護職員の役割は大きくなります。

さらに、メイクセラピーやアニマルセラピー等、高齢者がいつまでも活力ある暮らしができるようなアプローチも注目されるなど、介護に求められる人材も多様化していくといわれています。